

 Creativity & Challenge

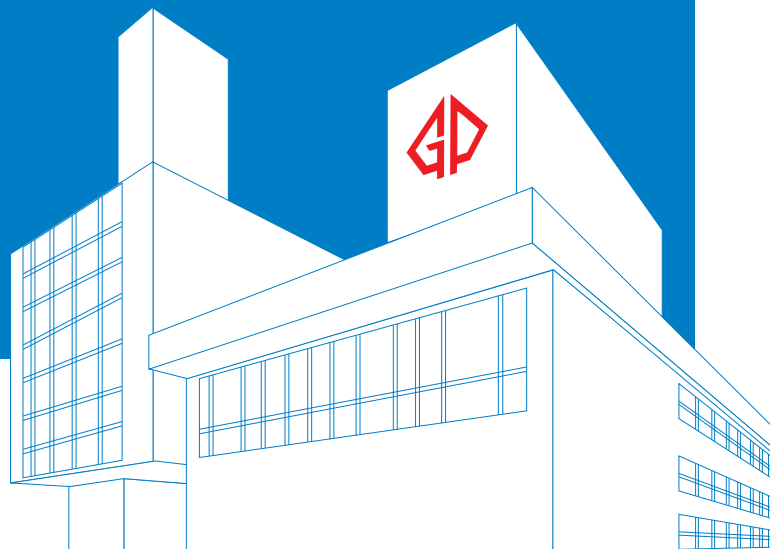
JASDAQ
証券コード：6267

株主・投資家の皆様へ

平成23年7月期 第**50**期

2010.8.1 ▶ 2011.7.31

報告書



決算のポイント

Point 1 3期連続の増収・増益を達成

化学関連業界向け及び海外向けの売上が増加したことなどにより、売上高・各利益ともに3期連続の成長を果たしました。

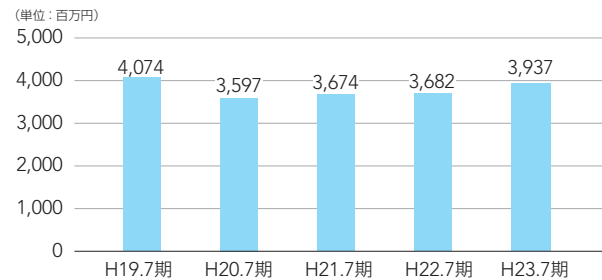
Point 2 利益率が向上

販売費及び一般管理費を前期以下に抑制できたことから、売上高経常利益率は5.9%（前期4.8%）、ROEは4.9%（前期3.8%）へと向上しました。

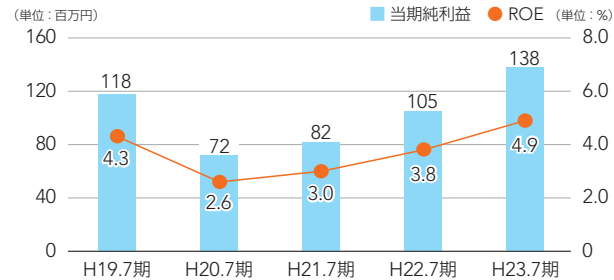
Point 3 創業50周年記念配当を実施

平成23年12月に迎える創業50周年を記念し、期末配当に記念配当1円を加えて増配。年間配当額は1株当たり8円となりました。

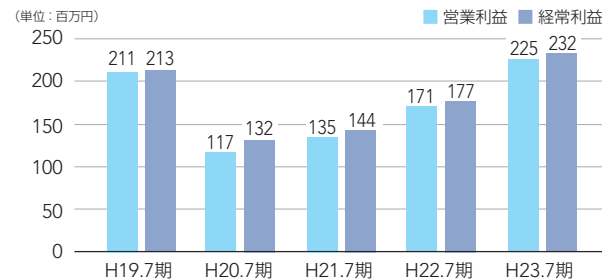
売上高



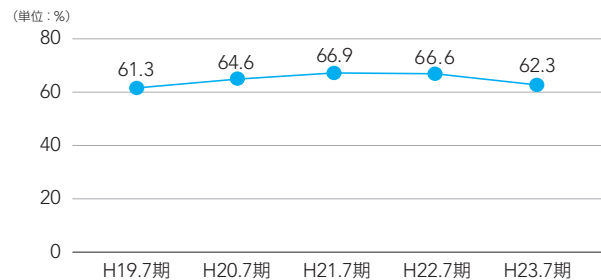
当期純利益 / ROE



営業利益 / 経常利益



自己資本比率



株主・投資家の皆様へ

新・中期経営計画をスタート。 事業領域の拡大による持続的成長へ。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。この度の東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈りいたします。以下、当期の営業状況と新たな中期経営計画についてご説明させていただきます。ご一読の上、当社事業へのさらなるご理解とともに、今後の成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。

当期の営業状況と業績

当期の包装機械業界は、顧客企業の設備投資の抑制傾向などにより、受注環境は厳しい状況が続いているものの、緩やかな回復傾向で推移しました。

その中で当社は、新規顧客と新たなマーケットの開拓、新機種種の拡販、海外販売の強化に努めるとともに、収益性の向上に取り組んできました。その結果、高価格機種の実績件数が増加し、前期を上回る受注高となりました。また、中小型案件の需要回復に伴い、販売台数も増加しました。

当期の売上高は、化学関連業界向け及び海外向け販売の好調を受け、3,937百万円（前期比6.9%増）と拡大しました。利益面では、販売費及び一般管理費の抑制効果が表れ、営業利益225百万円（同31.0%増）、経常利益232百万円（同31.3%増）、当期純利益138百万円（同

31.6%増）となりました。

第2次中期経営計画（平成21年7月期～平成23年7月期）に掲げた業績目標（売上高及び利益額）は、残念ながら未達となりましたが、3期連続の増収・増益による業績回復を果たすことができました。

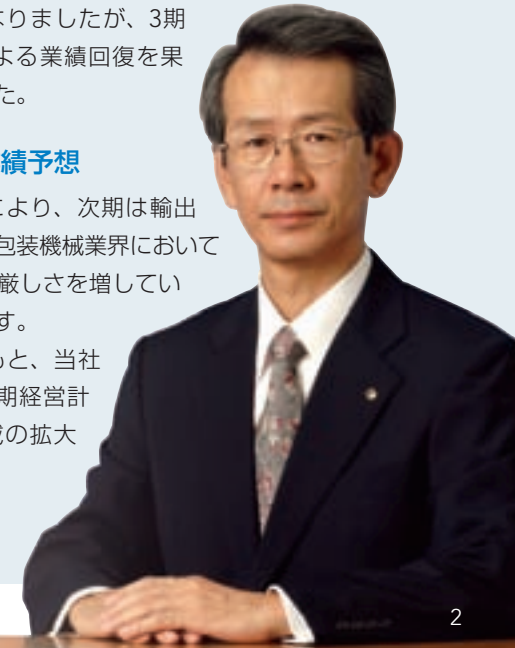
次期の見通しと業績予想

円高傾向の継続により、次期は輸出の低調が懸念され、包装機械業界においても受注環境はさらに厳しさを増していくものと予想されます。

そうした状況のもと、当社は後述する第3次中期経営計画に則り、事業領域の拡大

代表取締役社長

梅森 輝信



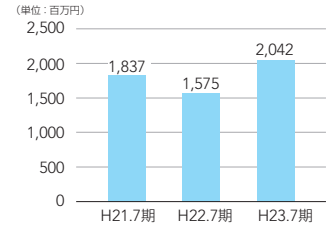
品目区分別の状況

給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）



2,042百万円
前期比129.7%

販売台数が増加したことに加えて、高価格機種の実績が増加したことから、売上高は2,042百万円（前期比29.7%増）となりました。

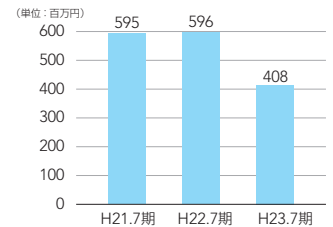


製袋自動包装機



408百万円
前期比68.5%

販売台数が減少したことから、売上高は408百万円（前期比31.5%減）となりました。

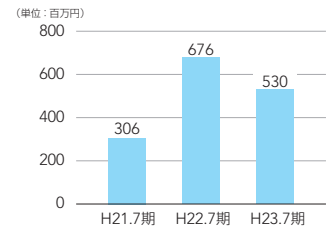


包装関連機器等

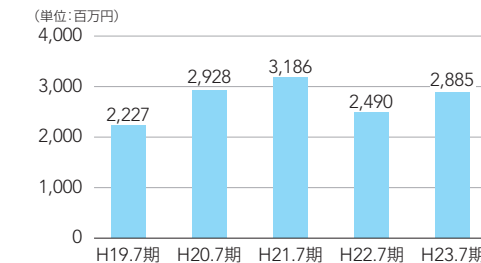


530百万円
前期比78.4%

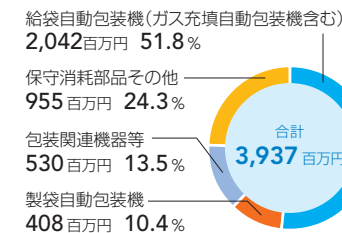
販売台数は増加したものの、大型包装システム及び高額案件の実績が減少したことから、売上高は530百万円（前期比21.6%減）となりました。



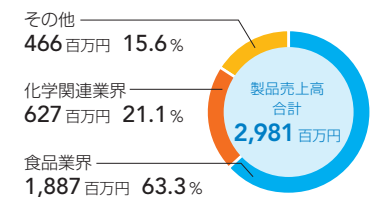
機械受注高



品目別売上高

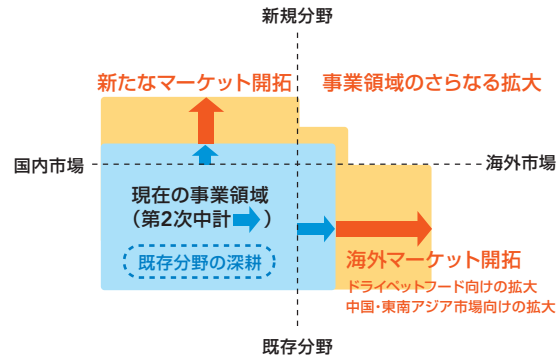


最終ユーザー業界別売上高



基本戦略

「持続的成長に向けて事業領域のさらなる拡大を目指す」



略投資を増加させ、特に新規分野と海外市場の開拓を重要課題として、取り組みを進めていく考えです。具体的には、「顧客ニーズの積極的吸収と独創的な商品開発の推進」「ドライ分野のロータリー式自動包装機国内シェアNo.1を維持」「海外市場向けの売上高比率15%以上」「包装システムのトータルプランナーとしての提案力強化」といったテーマに注力していきます。

数値面では、売上高の安定成長確立を重視し、利益率・利益額については、将来を見据えた積極的な戦略投資と予算支出を推進しながら、当期実績と同水準を維持していきます。経営目標として、計画最終年度における「売上高経常利益率5.5%以上」「ROA5.5%以上」「ROE5.0%以上」を掲げ、業績目標として「売上高4,400百万円」「営業利益245百万円」「経常利益250百万円」「当期純利益150百万円」の達成を目指します。

株主の皆様への還元

おかげさまで当社は、平成23年12月をもって創業50周年を迎えます。今回の期末配当は、株主の皆様への感謝を込めて創業50周年記念配当1円を加え、1株当たり4円50銭とさせていただきます。これにより、中間配当と合わせた年間配当額は同8円（前期比1円の増配）となり、配当性向は50.5%、純資産配当率は2.4%となりました。

今後の配当政策については、配当性向50%または純資産配当率2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

による持続的成長に向けて戦略投資を実施しつつ、業績の向上に努めてまいります。

次期の業績予想は、売上高4,200百万円（前期比6.7%増）、営業利益168百万円（同25.2%減）、経常利益170百万円（同26.9%減）、当期純利益100百万円（同27.9%減）を見込んでいます。

第3次中期経営計画の始動

当社はこの度、第3次中期経営計画を策定し、これを始動しました。当計画は、平成26年7月期までの3か年を対象期間としています。

当計画では、従来の事業領域で大幅な業績拡大を遂げていくことが困難であるとの認識に基づき、基本戦略を「持続的成長に向けて事業領域のさらなる拡大を目指す」と決めました。当社は、安定的な業績を確保した上で戦

ゼネラルパッカーの50年

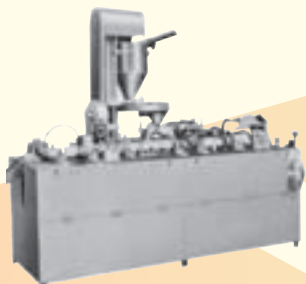


創業者 高野 寿
ひさし

大正12年12月5日生まれ 岩手県出身
大手製菓会社で包装機械を担当後、独立。
昭和36年 東陽商事(有)設立、昭和37年
(株)ゼネラルパッカー設立。平成8年没。

1961 昭和36年

高野寿が名古屋市に、
自動包装機の販売部門として
東陽商事(有)を設立。
翌昭和37年に製造部門として
(株)ゼネラルパッカーを
設立し、開発製造に着手。



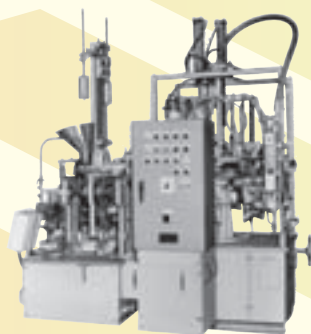
当社1号機
インスタント粉末袋詰包装機

1977 昭和52年

新ガス充填技術を研究・開発し、**ガスフラッシュ方式**のテクノパックシステムの1号機を商品化。
現在地に新社屋を落成。

1978 昭和53年

ガスフラッシュ方式を採用した高ガス置換率の**ダブルロータリー式ガス充填自動包装機** GP-GSシリーズを開発。



GP-GS2 型

1989 平成元年

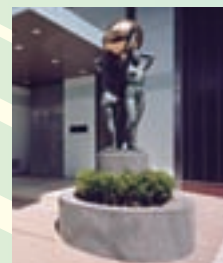
本社工場に隣接して
社屋(現・北館)を新設。

ゼネラルパッカー 社名の由来

国際化時代に生き残っていくには、世界に通用する独自技術を持ち、多くのお客様から評価されるような企業でなければならず、社名はグローバル市場でのパッケージングブランドとなることを社員一人ひとりが目指すべく「ゼネラルパッカー」としました。

2004 平成16年

本社工場南隣に南館を落成。
上場記念として
モニュメントを設置。
東京都千代田区神田鍛冶町に
東京営業部を移転。



2003 平成15年

JASDAQ市場に上場。



JASDAQ市場に上場

将来にわたってさらなる発展を続けるための成長戦略の一環として、今後の業容拡大に対する資金調達確保と財務体質の強化、内部体制の強化や人材の育成、そして安心や安全を提供する企業として社会的信用と知名度の向上を図るためJASDAQ市場(現・大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード市場))に上場。

2007 平成19年

本社工場に隣接して
新工場(東館)を落成。



2011 平成23年

ペットフード用ガス充填自動包装機の最新機種GP-777型を開発。

平成17年度の厳正な審査基準を満たし、「食品・化学品・医療用品等を包装する自動包装機専業メーカー」として、**愛知ブランド企業**に認定。



認定番号第14



愛知ブランド企業

愛知県では平成15年度より、県内の優れたものづくり企業を「愛知ブランド企業」と認定する制度を実施しています。



モニュメント

二十一世紀の人間生活をより豊かに未来あるものにつながるというゼネラルパッカー株式会社の使命をテーマに名古屋芸術大学教授の神戸氏が制作。歩道等にモニュメントが多数設置されている本社所在地の北名古屋市の活動への協賛の意も含みつつ、上場による会社のさらなる発展を祈念しました。



ガスフラッシュ方式

これまで袋を一旦真空にして、食品の酸化を抑える不活性ガスを充填する技術が主流でしたが、内容物とガスを瞬時に同時充填できる包装技術を開発しました。



ダブルロータリー式ガス充填自動包装機

充填物を充填後、仮付シールするロータリーテーブルとガス充填するロータリーテーブルの2つを同調させることにより、高効率なガス充填包装を可能とした包装機。

財務諸表

■ 貸借対照表

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期 (第50期) 2011.7.31 現在	前期 (第49期) 2010.7.31 現在	科目	当期 (第50期) 2011.7.31 現在	前期 (第49期) 2010.7.31 現在
資産の部			負債の部		
1 流動資産	3,668,091	3,207,995	2 流動負債	1,659,495	1,335,447
現金及び預金	1,623,897	1,753,987	支払手形及び買掛金	1,226,967	878,434
受取手形及び売掛金	1,161,572	661,771	未払法人税等	48,282	69,809
たな卸資産	663,359	657,060	賞与引当金	-	31,264
未収入金	170,422	79,516	製品保証引当金	11,036	8,245
その他	48,847	55,799	その他	373,208	347,692
貸倒引当金	△ 9	△ 139	固定負債	73,285	61,524
固定資産	945,334	988,204	退職給付引当金	35,985	31,034
有形固定資産	856,743	899,958	役員退職慰労引当金	37,300	30,450
建物及び構築物(純額)	557,202	592,968	その他	-	39
土地	280,603	280,603	負債合計	1,732,781	1,396,971
その他(純額)	18,937	26,385	純資産の部		
無形固定資産	14,572	10,153	株主資本	2,869,380	2,792,153
投資その他の資産	74,018	78,093	資本金	251,577	251,577
資産合計	4,613,426	4,196,200	資本剰余金	282,269	282,269
			利益剰余金	2,378,550	2,301,151
			自己株式	△ 43,016	△ 42,844
			評価・換算差額等	3,572	3,998
			その他有価証券評価差額金	3,572	3,998
			新株予約権	7,692	3,077
			純資産合計	2,880,645	2,799,228
			負債純資産合計	4,613,426	4,196,200

Check 1 流動資産は売上債権が前期末に比べ499百万円増加したこと等により、前期末に比べ460百万円増加しました。

Check 2 流動負債は仕入債務が前期末に比べ348百万円増加したこと等により、前期末に比べ324百万円増加しました。

■ 損益計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期 (第50期) 2010.8.1 ~ 2011.7.31	前期 (第49期) 2009.8.1 ~ 2010.7.31
売上高	3,937,486	3,682,568
売上原価	2,894,513	2,665,619
売上総利益	1,042,973	1,016,948
販売費及び一般管理費	817,688	845,030
営業利益	225,284	171,917
営業外収益	9,271	10,327
営業外費用	1,984	5,084
経常利益	232,571	177,159
特別利益	130	56
特別損失	7,128	-
税引前当期純利益	225,574	177,216
法人税、住民税及び事業税	83,141	78,240
法人税等調整額	3,687	△ 6,416
法人税等合計	86,828	71,823
当期純利益	138,745	105,392

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

科目	当期 (第50期) 2010.8.1 ~ 2011.7.31	前期 (第49期) 2009.8.1 ~ 2010.7.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 42,447	582,917
投資活動によるキャッシュ・フロー	34,400	△ 85,809
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 61,164	△ 104,392
現金及び現金同等物の増加額(△は減少)	△ 69,212	392,716
現金及び現金同等物の期首残高	1,553,910	1,161,194
現金及び現金同等物の期末残高	1,484,697	1,553,910

Check 3 損益は、売上高の増加に伴い、売上総利益も前期より増加しました。一方、販売費及び一般管理費は前期より抑制できたことから、営業利益は前期比53百万円の増加となりました。

■ 株主資本等変動計算書

(単位：千円、千円未満切り捨て)

(2010.8.1~ 2011.7.31)	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券評価差額金	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
前期末残高	251,577	282,269	2,301,151	△ 42,844	2,792,153	3,998	3,077	2,799,228
当期中の変動額								
剰余金の配当			△ 61,346		△ 61,346			△ 61,346
当期純利益			138,745		138,745			138,745
自己株式の取得				△ 171	△ 171			△ 171
株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額)						△ 426	4,615	4,189
当期中の変動額合計	-	-	77,399	△ 171	77,227	△ 426	4,615	81,417
当期末残高	251,577	282,269	2,378,550	△ 43,016	2,869,380	3,572	7,692	2,880,645

第2回 ペットフード用ガス充填包装機 充填技術への高評価で 海外マーケットを開拓。



海外ペットフードメーカーからの依頼

当社の強みの一つは、包装時の不活性ガス同時充填技術。内容物である食品とともに窒素や二酸化炭素などの不活性ガスを封入することで、品質・風味を長期保持します。

「ペットフード専用のガス充填包装機を開発してほしい」と、海外の大手ペットフードメーカーから依頼を受けたのは2005年のこと。同社が扱うのは、高級品に位置するペットフードであり、商品の外観も重要な要素。既存の包装機では得られない仕上がりの美しさを求めての開発依頼でした。

開発成功！世界各地の工場に導入

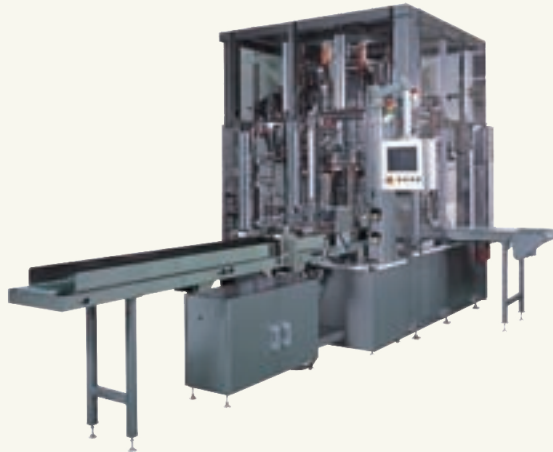
開発時の要求事項は、酸素濃度を5%以下に抑え、1分間に20～40個の包装速度を維持するというもの。技術面はすでに確立しており、開発は順調に進みましたが、海外工場仕様としてタッチパネル等の表示を現地語化し、安全対策にも万全を期しました。また、輸送効率を高めるため、包装のふくらみを減らし、振動で袋を均す装置が付加されました。

この開発の成功により、メーカーからは高い評価を獲得。世界各地の同社工場に導入される実績となりました。

海外市場売上高比率拡大への重点項目

その後は、充填量の拡大などメーカーの新たな要望に対応する後継機種を開発。現在までに、フランス、南アフリカ、ロシア、ブラジル、アルゼンチン、アメリカなど10カ国の工場に30台近くを納入しています。これらのガス充填包装機の更新需要や、工場の増設に伴う新規需要が引き続き期待できます。また、他の海外ペットフードメーカーからの受注もあり、2012年7月期に納入予定です。

当社は、第3次中期経営計画において「海外市場向けの売上高比率15%以上」という目標を掲げています。ドライペットフード向け包装機の拡大は、その実現に向けた重点項目であり、今後さらに力を入れていきます。



会社概要・株式情報

■ 会社概要 (平成23年7月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附帯する一切の業務
従業員数	119名
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺 神明65番地 Tel.(0568)23-3111(代) Fax.(0568)22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町 三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03)3256-3891(代) Fax.(03)3256-3893



■ 取締役及び監査役 (平成23年10月25日現在)

代表取締役社長	梅 森 輝 信	
常務取締役	小 関 幸太郎	管理部長
取締役	工 藤 誠 一	生産部長 兼 資材部担当
取締役	鈴 木 完 繁	営業本部長
取締役	池 田 勇 次	技術部担当
取締役	牧 野 研 二	開発部長
常勤監査役	余 川 善 明	
監査役	村 橋 泰 志	
監査役	浅 井 一 郎	

■ 株式の状況 (平成23年7月31日現在)

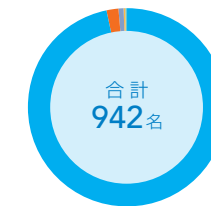
発行可能株式総数	28,000,000 株
発行済株式総数	8,994,000 株
株主数	942 名

■ 大株主 (平成23年7月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
ゼネラルパッカー従業員持株会	1,377,000	15.72
高野 まさ子	650,000	7.42
原 淳	601,000	6.86
株式会社りそな銀行	392,000	4.47
高野 季久美	364,000	4.15
田中 かな	364,000	4.15
ゼネラルパッカー取引先持株会	318,000	3.63
安江 禎治	279,800	3.18
原 利子	224,000	2.55
島末 孝法	196,000	2.23

自己株式230,707株を保有していますが、上記大株主から除いています。

株主数構成比



個人-その他	912名	96.80%
その他法人	18名	1.91%
証券会社	8名	0.85%
金融機関	3名	0.33%
自己名義	1名	0.11%

株式数構成比



個人-その他	8,009,935 株	89.05%
金融機関	502,000 株	5.58%
自己名義	230,707 株	2.57%
その他法人	164,400 株	1.83%
証券会社	86,958 株	0.97%

□ 株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日
	期末配当金 7月31日
	中間配当金 1月31日
	その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社
同事務取扱場所	〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目7番20号 日本証券代行株式会社 名古屋支店 Tel. (052)261-1781(代)
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
公告掲載URL	http://www.general-packer.co.jp/

各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。
証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

ホームページをご活用ください。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。

今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。



<http://www.general-packer.co.jp/>

 包装システムのトータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社

●本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568)23-3111(代) Fax. (0568)22-3222

●東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03)3256-3891(代) Fax. (03)3256-3893

